

研究通信

第61号

1968・5刊

村落社会研究局
会事務局

東京教育大学
文学部
社会学研究室内

運営・編集合同委員会記事

昭和四三年度、村研第二回運営委員会および第三回編集委員会は、四三年四月一七日（水）午後六時より東京教育大学社会学研究室において合同で開かれた。出席者、小池基之、福武直、中野卓、蓮見晋彦、安原茂、米地実、北原龍二、柿崎京一の各委員。

◎ 運営委員会に関する議題

一 会計の現状報告 昭和四三年一〇月二〇日愛知大学より会計事務の引継ぎ以降、現在（四三年四月一七日）までの中間報告が北原委員よりなされた。（関係記事は会計報告欄にもある。）なお、その際に、(1)村研会計年度である一〇月一日より翌年九月三日の期日を厳守し、大会時の会計は特別会計として別途に会計を行うこと。(2)会費納入額のなかには次年度以降の分も加算されているが、この金額は当該年度に繰越す分として分離しておくことが望ましい、という意見が確認された。

二 本年度大会について

○大会期日及び場所 本年度の大会は十月二三日（火）、二四日（水）の両日に決定した（なお、日本社会学会は十月二一、二二日の両日、

早稲田大学に於て行う予定)。場所は、箱山国民宿舍、箱根や逗子の共済組合保養所などが候補地としてあがったが、東京からの交通の便利、時間等を考慮した結果、逗子保養所を第一候補地とするにととした。なおその後、椅子式の会議室をもつ鎌倉保養所(若宮荘)はどうかという案もでている。

○大会報告の構成今年度は試みに、自由課題の報告を休止し共通課題に沿った報告のみとしてはどうかと今回の運営委は企画している。このような企画が出てきたのは、第二日目を、九一日共同討議にあて十分な論議の時間がとれるように、第一日に共通課題報告を行ってもらうこととしてはという考えからである。二日目の討議には、人により予め討議資料を準備しての発言をも期待できるとなる。共通課題の報告者は四、五名とする。この運営委の企画について会員諸兄より御意見をまつ。

○共通課題について昨年度の課題「村落構造の変化に対する推進力」を本年度も継続するよう、昨年の総会時に提案されていたとおり、運営委員会では昨年来の共通課題に、特に限定や補足を加えず本年も継続することに決定した。ただ、この共通課題に関する二日目の共同討議をどのような論点を考慮に入れてすすめるべきかにつき今後多様な御意見を全会員から頂き、大会直前号まで、村研通信の紙上を活用して討議を重ねてゆくことにした。研究会も活用して、先の、一月の研究会を第一回とし、第二回(五月)、第三回(六月)を東京で聞き(第一面参照)その結果は、第一回の場合と同様、村研通信に掲載し、反響を求め、各地での同様な予備的検討

の進行を期待する。

共通課題の報告を希望される方は、前記の討論の進行を参考にはしても、それに拘束されることなく、既に確定した課題名のもとで、これにふさわしいと判断された御自分の理論的枠組にもとずき独自にその報告を準備されたい。報告の申込みについては別掲の公募記事を参照のこと。

◎編集委員会に関する議題

一 年報第四集の編集について 予定された論文は研究動向(原稿〆切四月末日)の原稿を除き全部出揃ったので、編集委の当初の方針にもとずいて、内容の検討を行い、掲載論文、順序などの方針を逐次審議する。今回の編集委員会を四月二十七日ときめて散会した(後出記事参照)

二 村落社会調査研究叢書についての報告

研究叢書につきましては、編集委員会において、次のように取扱うことになりました。

現在のところ、四名の方々から申込がありますが、これらの方々完成原稿を送っていただき、先着順に然るべき審査をして、逐次刊行するということになりました。

これまでの出版社とのとりきめでは、三冊までは基金五〇万円で開催してもらえるわけで、すでに一冊分超過することになります。本が売れて何とかとんにゆけば、これ以上の刊行もしてもらえますし、そうならなくても叢書刊行はつつけてゆきたいわけですので、今後とも会員諸氏に積極的な協力をお願いいたします。